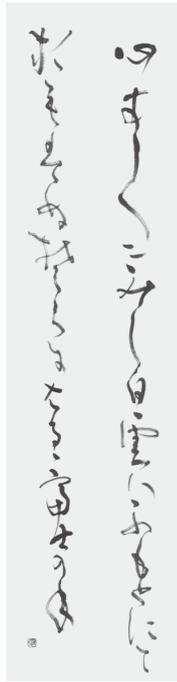
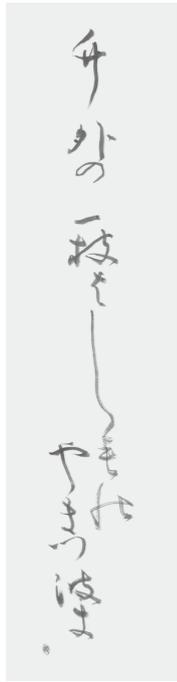


(助教以下の部)



穂先がよく効き、鋭い線で意のままに書き進められた。

木村 恭 翠



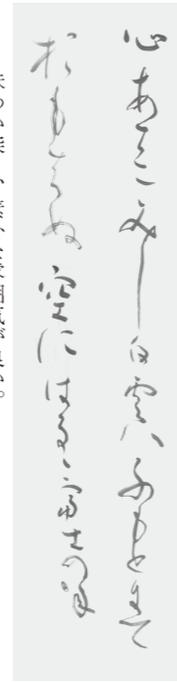
字間に変化をつけ、疎密が表現されている。

中川 雪 湖



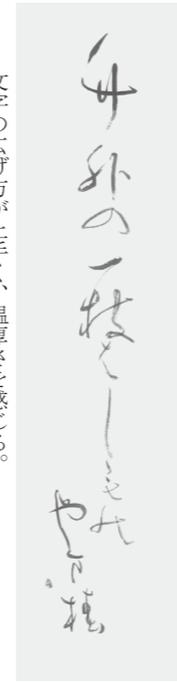
勢いと温かみを合わせ持った線質。字形にも工夫が見られる。

田 麥 知 風



味わい深く、素朴な雰囲気が良い。

徳 永 溪 雪



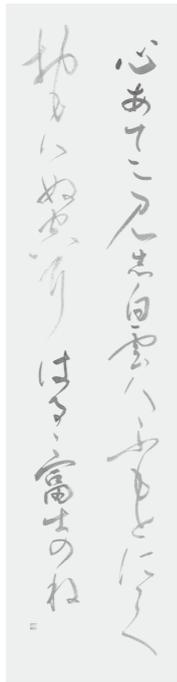
文字の広げ方が上手く、温厚さを感じる。

西 嶋 青 暎



浮沈を活かした軽快な筆運び。リズム感が心地よい。

海 野 雨 泉



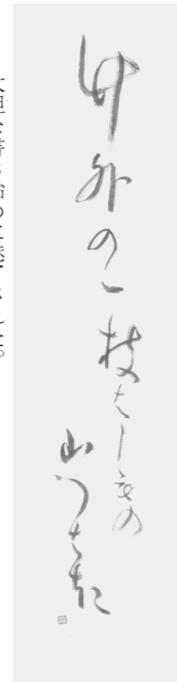
伸びやかな連筆が魅力的な作。今後に期待！

松 本 朋 子



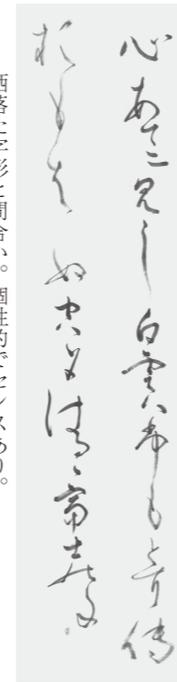
俳句を紙面にすっきり収めた。「一枝」の位置、一考。

位ノ花葉子



大胆な書き始めに魅了された。

西 田 治 美



洒落た字形と間合い。個性的でセンスあり。

赤 崎 嵐 影

かな部

内藤 詩 羊

作品づくりをする際に、四角い積み木を積んでいくようにきちんと整えて文字を並べても面白味がなく、かといって文字を変形させすぎて読めないことになって困ります。歌舞伎役者の第十八代目村勘三郎さんの言葉に「これまで『型破り』なことをずいぶんやってきたけれど、それは型があったからできたこと。過去から学ばずに新しいことをやるのは『かたなし』って言う」とあります。書においては、古筆や先人の作品から基本的な知識を身につけた上で、独自の作品づくりをするということでしょうか。さあ、そろそろ水明書展の準備を始めましょう！

A 春の夜の闇はあやなし梅の花

色こそ見えね香やはかくるる (凡河内躬恒)

B 君行くや柳緑に道長し

春の夜の闇というものは理が立たない。梅の花は、闇のために色の方は見えないが、香りの方はかくれようか、かくれはしない。(しめきり)………四月十四日

(与謝蕪村)

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

※出品資格：五段以上。A・Bの両方向時に出品可。

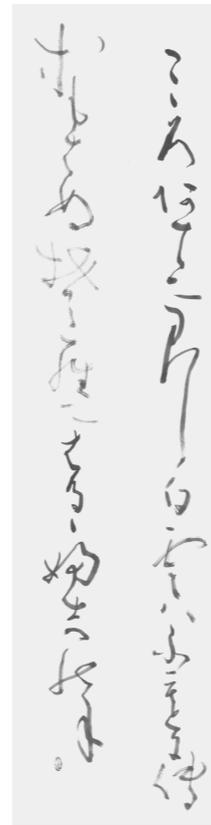
※二点出品の場合、出品券の下部にA・Bを明記のこと。

※用紙は、半切縦か角半。(角半は四月締切分より可)

(選評)

師範・準師範の部

瑞泉君 連綿線が力強く、迫力のある作。堂々。
千賀子君 渴筆の細い線と潤筆の太い線の使い方が効果的。
陽光君 若干二行の間隔が広いが、様々な線質を用い奥深い作。
珠房君 素直な書きぶりで、見ていて飽きの来ない作。
清子君 墨量の減り方が自然で美しい。墨継ぎが効いている。



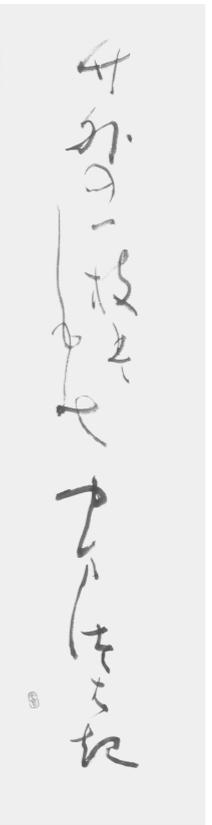
八 木 清 子



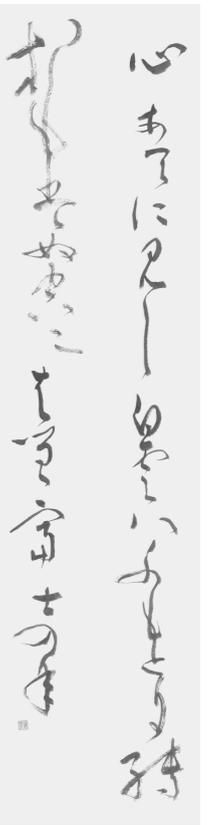
森 川 珠 房



石 田 陽 光



中 川 千 賀 子



安 積 瑞 泉